

別記様式第8号

鳥獣被害防止総合支援事業、鳥獣被害防止都道府県活動支援事業、鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業、鳥獣被害防止施設整備促進支援事業、及び鳥獣被害防止対策促進支援事業の評価報告(令和5年度報告)

山口県

1 被害防止計画の作成数、特徴等

県内全ての市町(19市町)において、被害防止計画が作成されている。
このうち、萩市と阿武町が広域の被害防止計画を作成している。

2 事業効果の発現状況

本事業においては、有害捕獲、侵入防止柵の整備及び緊急捕獲活動等に取り組んでおり、一定の成果を得ている。

3 被害防止計画の目標達成状況

4の評価対象のうち、被害防止計画の被害金額の目標達成は2協議会、被害面積の目標達成は2協議会であった。

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

[illegible]

宇部市有害鳥 獣捕獲対策協 議会	宇部市	R2	イノシ サル シカ ノウサキ タヌキ ヌートリア アナグマ カラス ドバト ヒヨドリ スズメ カワウ アライグマ	有害捕獲 ICT等新技術の活用 ICT等新技術実証 鳥獣被害防止施設 緊急捕獲活動	狩猟免許取得費補助 捕獲檻 19基 くくりわな 40基 射撃訓練研修の開催 獣サイズ識別センサー 7基 長距離無線式バトロールシステ ム 親機1基・子機7基 ドローンの活用実証 侵入防止柵 15,950m イノシシ 594頭 サル 3頭 シカ 4頭	宇部市有 害鳥獣捕 獲対策協 議会	R2.4～	100%	侵入防止柵設置による農林産物の 被害軽減及び捕獲効率の向上 捕獲檻等の整備及び捕獲圧の維持 による生息数の増加抑制 ICT機器整備による捕獲コストの削 減	21,500千円	21,528千円	99%	13.6ha	16.63ha	55%	実施隊による有害鳥獣捕獲活動や侵入防 止柵の導入継続により鳥獣による農業被害に ついては全体的には減少傾向にある。しか し、ICT機器導入後の効果的な活用や、緩衝 帯の整備など今後の課題が残されている	宇部市では、イノシシ・サル・ヒヨドリの 被害が多く、その中でもイノシシ被害が 深刻な状況にあります。サル・ヒヨドリに ついては、侵入防止柵等の施設整備を 計画的に実施し、個体数管理も効果的 の捕獲を行っていることから、一定の効果 が出ています。 被害防止計画の全体目標値は概ね達 成されていますが、鳥獣によっては被害 が増えているものが見られます。この原 因は、生息域が拡大してこれまで出沒 のなかった地域に被害が広がるととも に、農家の対策が後手になったことが問 題と考えられます。今後は、被害が新た に発生する可能性が高い地域を中心 に、被害対策として、被害防除・個体数 管理・生息地管理の3つを総合的に進め る指導を行う必要があると考えます。 被害防除の侵入防止柵の整備と有害 鳥獣捕獲については、鳥獣被害防止総 合対策交付金事業により実施していま すが、より効果的な成果を得るために、 現状把握を行いながら農家と連携して 「地域ぐるみ活動対策プラン」を作成し、 集落全体での被害対策を進めていた きたい。 なお、ヌートリア被害が増えてきていま すが、ヌートリアやアライグマなどの特 定外来生物の被害が報告された場合 は、捕獲対策を積極的に進めるようお 願います。	被害全体としては減 少傾向にあるが、被害 の大半を占めるイノシ シの被害が、昨年度の 事業評価実績値（令和 4年度実績）と同一く、 基準年となる平成30年 度を上回っている状況 である。 このため、イノシシに 対する更なる対策強化 が必要と考えられる。 また、効果的に被害 を減少させていくため に、加害個体の捕獲、 侵入防止柵の整備、生 息環境管理など総合的 な対策に努め、地域ぐ るみの被害防止活動の 取組を引き続き推進し ていきたい。
		R3		有害捕獲 ICT等新技術の活用 鳥獣被害防止施設 緊急捕獲活動	狩猟免許取得費補助 捕獲檻 37基 射撃訓練研修の開催 くくりわな製作・設置研修の開催 獣サイズ識別センサー 2基 長距離無線式バトロールシステ ム 親機2基・子機2基 侵入防止柵 10,123m イノシシ 461頭 サル 24頭 シカ 11頭	宇部市有 害鳥獣捕 獲対策協 議会	R3.4～	100%	侵入防止柵設置による農林産物の 被害軽減及び捕獲効率の向上 捕獲檻等の整備及び捕獲圧の維持 による生息数の増加抑制 ICT機器整備による捕獲コストの削 減									
		R4		有害捕獲 ICT等新技術の活用 ジビエ等の利用拡大 鳥獣被害防止施設 緊急捕獲活動	狩猟免許取得費補助 捕獲檻 13基 移動式サル大型捕獲檻 1基 射撃訓練研修の開催 くくりわな製作・設置研修の開催 長距離無線式バトロールシステ ム 子機4基 先進地視察研修の実施 侵入防止柵 11,963m イノシシ 509頭 サル 19頭 シカ 16頭	宇部市有 害鳥獣捕 獲対策協 議会	R4.4～	100%	侵入防止柵設置による農林産物の 被害軽減及び捕獲効率の向上 捕獲檻等の整備及び捕獲圧の維持 による生息数の増加抑制 ICT機器整備による捕獲コストの削 減 ジビエ振興に向けた機運の向上									
		R5		有害捕獲 鳥獣被害防止施設 緊急捕獲活動	狩猟免許取得費補助 射撃訓練研修の開催 くくりわな製作・設置研修の開催 侵入防止柵 12,605m イノシシ 716頭 サル 49頭 シカ 15頭	宇部市有 害鳥獣捕 獲対策協 議会	R5.4～	100%	侵入防止柵設置による農林産物の 被害軽減及び捕獲効率の向上 捕獲圧の維持による生息数の増加 抑制									

山口市有害鳥 獣捕獲対策協 議会	山口市	R2	サル イノシ ノウサキ タヌキ ツキノワグマ アナグマ ハト類 カラス スズメ ヒヨドリ カモ類 サギ類 シカ カワウ	有害捕獲 被害防除 鳥獣被害防止施設 緊急捕獲活動	捕獲檻 5基 サル大型捕獲檻 1基 追い払いの実施 侵入防止柵 11,331m イノシシ 870頭 シカ 7頭 サル 90頭 タヌキ 7頭 アナグマ 6頭 アライグマ 14頭 ヌートリア 2頭 ノウサギ 4頭	山口市有 害鳥獣捕 獲対策協 議会	R2.4～	100%	侵入防止柵設置による農林産物の 被害軽減及び捕獲効率の向上 捕獲檻の整備及び捕獲圧の維持に よる生息数の増加抑制	15,865千円	18,189千円	66%	11.37ha	23.6ha	-148%	鳥獣による農作物の被害金額、被害面積と もに目標を達成することはできなかった。今年度 中に鳥獣被害防止計画の見直しを行い、特に イノシシ、サル被害について対策の再検討を 行う必要がある。	山口市では、イノシシとサルの被害が 深刻な状況にあります。サル対策につ いては、有害捕獲による個体数管理、 集落住民による被害防除と追い払い活 動などにより、一定の効果が出ていま す。イノシシ対策については、有害捕獲 による個体数管理と金網フェンスなどの 防護対策を行っていますが、被害の 削減目標値は達成することができてい ません。 また、被害防止計画の全体目標値も 達成できていません。この原因は、被害 対策を行なっている地域での被害は減 少しているものの、野生鳥獣の生息域 が拡大して、これまで出没のなかった地 域に被害が発生するとともに、農家の対 策が後手になったことが原因と考えられ ます。 今後の対策としては、被害が新たに発 生する可能性の高い地域を中心に、防 護対策・捕獲対策・生息地管理の3つを 総合的に進める必要があると考えます。 被害対策は、鳥獣被害防止総合対策交 付金事業により、総合的な被害対策を 行なうことができますが、より効果的な 対策にするため、被害の状況把握を行 い、農家と連携して「地域ぐるみ活動対 策プラン」を作成して、集落全体での対 策を進めていただきたい。	サルについては昨年 度の事業評価実績値 (令和4年度実績)に引 き続き、被害額及び被 害面積を大幅に減少さ せることができている。 イノシシについても、令 和4年度実績は基準年 の平成30年度を上回る 被害額だったが、今回 は下回る水準まで減少 させることができている ため、対策に一定の効 果が認められる。 しかしながら、イノシ シの被害面積やカラス による被害は依然とし て高い水準にあり、更 なる対策の強化が必要 である。 まずは被害防止計画 の見直しを行い、被害 対策の取組み強化を 図っていただきたい。 また、効果的に被害 を減少させていくため に、加害個体の捕獲、 侵入防止柵の整備、生 息環境管理など総合的 な対策に努め、地域ぐ るみの被害防止活動の 取組を引き続き推進い たいただきたい。
		R3	アライグマ ヌートリア ハクビシン	有害捕獲 被害防除 鳥獣被害防止施設 緊急捕獲活動	サル大型捕獲檻 2基 追い払い活動の実施 侵入防止柵 28,386m イノシシ 998頭 シカ 8頭 サル 40頭 タヌキ 13頭 カラス 19羽 ヒヨドリ 4羽 カワウ 4羽 アナグマ 15頭 アライグマ 9頭 ヌートリア 5頭 ノウサギ 2頭	山口市有 害鳥獣捕 獲対策協 議会	R3.4～	100%	侵入防止柵設置による農林産物の 被害軽減及び捕獲効率の向上 捕獲檻の整備及び捕獲圧の維持に よる生息数の増加抑制									
		R4		被害防除 鳥獣被害防止施設 緊急捕獲活動	追い払いの実施 侵入防止柵 26,026m イノシシ 1,011頭 シカ 10頭 サル 79頭 タヌキ 12頭 カラス類 3羽 ヒヨドリ 22羽 カワウ 5羽 アナグマ 17頭 アライグマ 4頭 ヌートリア 1頭 ノウサギ 1頭	山口市有 害鳥獣捕 獲対策協 議会	R4.4～	100%	侵入防止柵設置による農林産物の 被害軽減及び捕獲効率の向上 捕獲圧の維持による生息数の増加 抑制									
		R5		有害捕獲 被害防除 鳥獣被害防止施設 緊急捕獲活動	サル大型捕獲檻 2基 捕獲檻 2基 追い払いの実施 侵入防止柵 12,663m イノシシ 652頭 シカ 9頭 サル 82頭 タヌキ 17頭 カラス類 4羽 ヒヨドリ 28羽 カワウ 6羽 アナグマ 10頭 アライグマ 13頭 ノウサギ 3頭	山口市有 害鳥獣捕 獲対策協 議会	R5.4～	100%	侵入防止柵設置による農林産物の 被害軽減及び捕獲効率の向上 捕獲檻の整備及び捕獲圧の維持に よる生息数の増加抑制									

防府市有害鳥 獣捕獲対策協 議会	防府市	R3	イノシシ タヌキ アナグマ ニホンシカ サル カラス ヌートリア アライグマ	鳥獣被害防止施設 緊急捕獲活動	侵入防止柵 1,400m イノシシ 389頭 シカ 3頭 タヌキ 28頭 アナグマ 4頭 アライグマ 3頭 ヌートリア 23頭	防府市有 害鳥獣捕 獲対策協 議会	R4.2～	100%	侵入防止柵設置による農林産物の 被害軽減及び捕獲効率の向上 捕獲圧の維持による生息数の増加 抑制	1,780千円	1,079千円	192%	1.74ha	1.68ha	108%	令和5年度を目標年度として被害額の減少 を目指してきた。最も被害額の大きいイノシシ については、捕獲頭数及び被害金額が減少 傾向にある。タヌキの捕獲頭数及び被害金額 は近年継続して減少しているが、未だ市内全 域に生息しており、被害面積は年によって多 少の増減があった。 近年、特定外来生物であるアライグマとヌー トリアの捕獲頭数及び目撃報告が増加してお り、被害が発生しているため、捕獲隊及び実 施隊で連携して積極的に捕獲を実施する。 効果的な鳥獣被害防止施設の設置及び捕 獲隊による積極的な捕獲活動を実施したこと により、被害防止計画の目標を概ね達成でき たと考える。	防府市の鳥獣被害対策では、イノシシ やタヌキなどの被害に対応するため、侵入 防止柵等の施設整備を実施すると もに個体数調整の捕獲を行って、被害 防止計画の全体目標値を達成していま す。 しかしながら、野生鳥獣は常に繁殖し ていることから、被害対策は今後も継続 して実施していく必要があります。対策 としては、防護対策・捕獲対策・生息地 管理の3つを総合的に進めることになり ますが、より効果的な成果を得るため に、「地域ぐるみ活動対策プラン」を作成 して、集落全体で被害対策を進めること も検討していただきたい。 なお、特定外来生物のアライグマや ヌートリアの目撃情報を受けて捕獲に取 り組んでいますが、繁殖力が強い動物 であることから、今後も積極的な捕獲実 施をお願いします。	防府市における被害 のほとんどはイノシシで あるが、当該獣種の被害 金額及び被害面積を 大幅に減少させること ができており、このこと が全体目標の達成につ ながったと考える。 一方で、毎年ヌートリ アやアライグマの捕獲 数が増加しており、被害 の拡大が懸念される ため、引き続き捕獲の 強化を進めていただ きたい。 また、効果的に被害 を減少させていくため に、加害個体の捕獲、 侵入防止柵の整備、生 息環境管理など総合的 な対策に努め、地域ぐ るみの被害防止活動の 取組を引き続き推し進 めたい。
		R4		鳥獣被害防止施設 緊急捕獲活動	侵入防止柵 1,320m イノシシ 312頭 シカ 3頭 タヌキ 27頭 アナグマ 26頭 アライグマ 11頭 ヌートリア 44頭	防府市有 害鳥獣捕 獲対策協 議会	R5.2～	100%	侵入防止柵設置による農林産物の 被害軽減及び捕獲効率の向上 捕獲圧の維持による生息数の増加 抑制									
		R5		緊急捕獲活動	イノシシ 172頭 シカ 1頭 タヌキ 13頭 アナグマ 17頭 アライグマ 17頭 ヌートリア 63頭	防府市有 害鳥獣捕 獲対策協 議会	-	-	捕獲圧の維持による生息数の増加 抑制									

柳井市有害鳥 獣捕獲対策協 議会	柳井市	R2	イノシ サル シカ タヌキ アナグマ カラス ヒヨドリ カワウ ヌートリア	有害捕獲 緊急捕獲活動	捕獲檻 10基 イノシシ 967頭 サル 3頭	柳井市有 害鳥獣捕 獲対策協 議会	R2.10～	100%	捕獲檻の整備及び捕獲圧の維持に よる生息数の増加抑制	9,292千円	6,078千円	181%	5.32ha	3.86ha	164%	イノシシ、サル、タヌキなどの被害が発生し ており、捕獲活動の奨励や電気柵等の侵入 防止柵の設置による被害防止対策を進めた 結果、農作物の被害は徐々に減少していまし たが、令和4年度の目標は達成できませんで した。 令和5年度は豚熱の流行が影響したと思わ れるイノシシ出没の減少により、農作物被害も 減少し当初の目標を達成しました。	柳井市では、イノシシの被害が多く深 刻な状況にあります。イノシシ対策とし ては、緊急捕獲活動等の個体数管理に より効果的捕獲を行っていることから、 一定の効果が出ていると考えられます。 しかしながら、令和4年度に目標を達成 できなかったことから1年継続して対 策を行ない、5年度でようやく目標を達成 することができました。被害対策の内 容を確認したところ、緊急捕獲による個 体数管理に力を入れています。農作物被害 の対策としては、捕獲だけでなく、防護 対策・捕獲対策・生息地管理の3つを総合 的に進める必要があると考えます。 農林業の被害対策は、鳥獣被害防止 総合対策交付金事業により、様々な対策 を実施することができると、より効果的な 成果を得るために、被害の現状把握を行 いながら農家と連携して「地域ぐるみ活 動対策プラン」を作成し、集落全体で様 々な被害対策を進めていきたい。	イノシシの被害金額 及び被害面積が大きく 減少したことにより、全 体目標値を達成するこ とができています。 しかしながら、令和5 年度はイノシシの捕獲 数も大きく減少してお り、被害の減少には、 豚熱による影響も考え られるため、被害対策 を継続していただきた い。 また、効果的に被害 を減少させていくため に、加害個体の捕獲、 侵入防止柵の整備、生 息環境管理など総合的 な対策に努め、地域ぐ るみの被害防止活動の 取組を引き続き推進い ただきたい。
		R3		有害捕獲 緊急捕獲活動	捕獲檻 7基 イノシシ 847頭 サル 18頭	柳井市有 害鳥獣捕 獲対策協 議会	R3.9～	100%	捕獲檻の整備及び捕獲圧の維持に よる生息数の増加抑制									
		R4		有害捕獲 緊急捕獲活動	捕獲檻 6基 イノシシ 787頭 サル 12頭	柳井市有 害鳥獣捕 獲対策協 議会	R4.9～	100%	捕獲檻の整備及び捕獲圧の維持に よる生息数の増加抑制									
		R5		有害捕獲 緊急捕獲活動	捕獲檻 6基 イノシシ 519頭 サル 4頭 シカ 1頭	柳井市有 害鳥獣捕 獲対策協 議会	R5.10～	100%	捕獲檻の整備及び捕獲圧の維持に よる生息数の増加抑制									
山口県	-	R5	-	新技術実証・普及活動 人材育成活動 ジビエ利用拡大	実証2課題 外部アドバイザーの地域派遣 ジビエに係る食の機会提供	-	-	-	効率的かつ効果的な防護、捕獲技 術の開発及び実証 地域における鳥獣被害対策の推進 ジビエの認知度向上	-	-	-	-	-	-	実証成果について、市町や関係団体等に情 報提供するとともに、現地適用が可能な技術 について普及を図る。 また、ジビエの利用拡大のために、引き続 き、ジビエの普及啓発・販路拡大を図る。	-	-

注1：被害金額及び被害面積の目標欄については対象鳥獣及び目標値を記し、これに合わせて他の欄も記載する。
2：都道府県が事業実施主体となる鳥獣被害防止都道府県活動支援事業を実施した場合、その事業内容等も記載すること。
3：事業効果は記載例を参考とし、獣種等ごとに事業実施前と事業実施後の定量的な比較ができるよう時間軸を明確に記載の上、その効果を詳細に記載すること。整備事業を行った場合、捕獲効率の向上にどのように寄与したかも必ず記載すること。
4：「事業実施主体の評価」の欄には、その効果に対する考察や経営状況も詳細に記載すること。
5：鳥獣被害防止施設の整備を行った場合、侵入防止柵設置後のほ場ごとの鳥獣被害の状況、侵入防止柵の設置及び維持管理の状況について、地区名、侵入防止柵の種類・設置距離、事業費、国費、被害金額、被害面積、被害量、被害が生じた場合の要因と対応策、設置に係る指導内容、維持管理方法、維持管理状況、都道府県における点検・指導状況等を様式に具体的に記載し、添付すること。

5 都道府県による総合的評価

山口県全体の被害額は、平成22年度の8億円から減少傾向にあり、令和5年度は3.4億円まで減少した。今後も引き続き農林業被害を軽減するため、各種事業を活用しながら、地域住民主体の「捕獲」、「防護」、「生息地管理」による総合的な被害防止対策を推進し、地域ぐるみで取り組む被害防止活動を全県展開する。